

# Shining ほいく



第52号 令和8年2月16日:編集・発行 保育運営課研修担当

『shining ほいく』は研修の振り返りと実践への活用を目指し発行する機関紙です。研修受講後に保育の質の向上に向け学んだ内容を実践に繋げていく中で『shining ほいく』を活用していただけたら幸いです。

～「shining ほいく」お役立ちポイント～

- ① 「この間の研修どんな研修だった？」と話すときに『参考になる。』
- ② 他園で研修をどのように活用しているか知りたい時に『ためになる。』
- ③ 保育を見直したい時になるほど！と『気づきがある。』

## UDスクール研修

### かないくぼ保育園の取り組みについて

UDスクールとは、児童に対し、幼児期から自分を含め、世の中には様々な人がいることを知ること、多様な人の困りごとや解決方法を発見することの体験により、想像力や思いやりの気持ちを育み、多様性について興味、関心を高めることを目的としています。板橋区立保育園では、ユニバーサルデザイン啓発パンフレット「まちのなかで気づくかな？」を活用し、子どもたちが身の回りにいる人や場所に目を向けて、友だちと一緒に気づいたり、考えたり、新たなことを知る機会にしています。

「まちのなかで気づくかな？」のパンフレットを5歳児と一緒に見ながら、困っている人探しをしました。その中で、点字ブロック上の自転車や階段前で困っている車いすの人々に気づく子どもたち。その後10個の答え合わせを行いながら、聴覚障がいの方は筆談や手話があること、視覚障がいの方は白杖の使用や盲導犬を連れてくること等を伝え、どうして困っているのか？を一つ一つ確認しました。

その後、板橋区役所へ向かい、子どもたちが、区役所内で点字ブロックや点字の案内版、だれでもトイレを見つけました。また、板橋区役所の南館の入り口は階段のみであるが、正面玄関にはスロープ状になっていて、配慮がされている違いに気づいてきました。



その後の5歳児クラスでは、手話に興味を持ち始めた子が多く、手話を使つての歌や簡単な単語・指文字を覚え始め、クラス内で見せ合う姿が出てきています。

# 「みんな知らない！読み聞かせの本当の効果・効能を知るだけで上手になるコツ」

講師：(社)JAPAN絵本読み聞かせ協会 代表 景山 聖子講師

## 高島平つぼみ保育園の取り組み



### 保育士が興味を持ち内容を知りたい研修

研修タイトルからも魅力を感じる研修！読み聞かせのコツや心がまえ・絵本に隠された秘密など普段から絵本に親しんでいる保育士には知的好奇心をくすぐられる内容でした。研修報告では職員が興味深くその内容に耳を傾ける姿が見られました。研修受講者は“読み聞かせ後の感想を子どもに求めない”“セリフの無いページには作者の一番伝えたい思いが込められている”“絵本を読み聞かせするときは演者の表情を見せる”など、学んだ内容を意識しながら実践に繋げていました。なかでも“読み聞かせ後の感想を子どもに求めない”の効果として、子ども達から以前とは違う言葉がとびだし余韻を一層楽しむ姿が感じられました。



### 絵本の魅力をもっと広めていこう！～絵本コーナーに読み聞かせのポイントを知らせる掲示～

高島平つぼみ保育園の令和6年度ふれあいブックコーナー利用回数のはべ888回。毎日たくさんの家庭に利用してもらっています。今回の研修内容は保護者にもぜひ伝えたいポイントがたくさんありました。そこで、ふれあいブック係で研修内容を確認し、保護者に向けてどんなところを知らせていきたいか検討をしました。“何故子どもに絵本を読むのか？”“子どもは読み聞かせをしてもらっているとき、どんなところに惹きつけられるのか？”“子どもに発見する喜びを味あわせる”の項目では「あ～わかる！」「なるほど～！」と保育士同士も盛り上がり、読み聞かせの魅力を再発見しました。そんな内容を吟味し、保護者に伝えたいポイントを7つにまとめ掲示をしていくことに決定しました。

絵本の読み聞かせの奥深さを表現するため掲示のタイトルは

#### 【 あなたの知らない絵本の世界 】

#### <7つのポイント>



- ① 絵本で現実と空想の世界を子どもたちは旅をする。
- ② 読み聞かせ、子どもはどこに惹きつけられる？→絵や表情、読み手の雰囲気や92% 言葉はたったの8%
- ③ 絵本の読後、すぐに感想を求めない。子どもはイメージを膨らませ余韻を楽しんでいる。
- ④ 自分で発見する喜びや楽しさを奪わないように読み手の説明は少なくする。
- ⑤ 絵本のデトックス効果。優しい温かい世界に触れることでのこころの浄化作用。
- ⑥ 言葉(セリフ)の無いページは作者が一番伝えたいことが込められていることがある。
- ⑦ イヤイヤ期「やだ」の言葉がたくさん出てくる絵本を読むと子どもの「やだ！」が減る。



※実際の掲示にはもう少し内容を詳しく説明する文章が付いています。

日々忙しく掲示をゆっくり見る時間が取れない保護者に向け、掲示だけではなく内容を配信にして届け、「どのポイントが印象に残ったか？」「その理由は？」といったアンケートも実施し、保護者の興味や関心を探ってみました。

### 保護者の反応は？

保護者の興味や関心が高かったのは②と⑦。②の感想では「読み手側からしたらお話を聞いてくれていると思ったので驚き。ちゃんと聞いていないなと思うことがよくありましたが、あまり気にしなくて良いのだと気づき楽になりました。」⑦の感想「絵本でイヤイヤした気になるなら助かります」「第一子でこういった発想がなかったので下の子のイヤイヤ期がひどくなったら実際にやってみようと思います」などなど。ほかにも興味深い感想が聞かれました。身近で気軽に触れられる存在の絵本についてのアンケートの回答率は、85家庭のうちおよそ30%と予想を超える高さでした。

今後の取り組みについて これからのふれあいブックコーナーの充実に向けて、今年度の最多貸し出し絵本ランキングや保育士のおすすめ絵本の紹介、7つのポイントを体験できる絵本の紹介はどうか？など泉のようにアイデアが湧いています。読み聞かせも含め、研修での学びを活かしながら身近にある絵本の楽しさをこれからも様々な形で発信していきたいと思っています。

# 「救命講習」研修

## 東新保育園の取り組み

子どもたちの安全を守る為には、どうしたら良いか、いろいろな状況での対応法を学びました。

「救命講習」研修では、AEDの使い方、心肺蘇生について学んだほか、一枚の写真から子どもに起こりうる事故や危険を予測し環境を整備することも学びました。東新保育園では、この研修を基に園内研修を行い、全職員で子どもの安全な環境について考えました。

各保育室環境の写真を撮り、職員間で次の点について話し合いました。

- ・起こりやすい怪我は何がありそうか。
  - ・どのように気を付けて保育していくか。
- その話し合いの一部をご紹介します。

### 1歳児室< 扉、仕切り >



#### 起こりやすいケガは何がありそうか

- ・指を挟む
- ・足を挟む
- ・つまづく

#### どのように気を付けて保育していくか

- ・扉の開閉時子どもがいないか確認をする
- ・扉を開けて通るとき(移動時)に保育士が近くにつく

### 2歳児室< 椅子 >



#### 起こりやすいケガは何がありそうか

- ・ひっくり返る
- ・背もたれの間足を入れる

#### どのように気を付けて保育していくか

- ・正しい座り方を知らせる
- ・体に合うように高さを調整する

### 4歳児室< 引き出し >



#### 起こりやすいケガは何がありそうか

- ・指を挟む

#### どのように気を付けて保育していくか

- ・よそ見をせず、ゆっくり引き出しの開閉を行うように声をかける
- ・引き出しの中の洋服がいっぱいになって開けづらくなっていないか、自分で気が付けるように声をかける

各扉での手指の引き込み、椅子に座っている時の姿勢などで多く怪我が起こりやすいと予測しました。また備品の不具合からも怪我に繋がるので、定期的な点検が必要だと確認しました。そのほかに、散歩先での子どもの怪我による救急車要請を想定した避難訓練を行いました。

職員一人一人が緊迫した状況の中、どう動くかシミュレーションを行い、予測される事態の対応策を考えることが出来ました。引き続き安全管理に努めていきます。

# 「保育園における安全保育を考える研修」



## 【研修内容】

- ・散歩の場面を活用した実務研修(マニュアル、チェックリストの確認、自己の保育活動の振り返り)
- ・グループワーク(散歩の意義と危機管理を考える、保育の場面ごとの安全保育についての意見交換、各園での取り組みの情報交換、野外活動における危険箇所の共有)



## 相生保育園での取り組み

これまでも保育の中でのヒヤリハットや事故報告、研修の学びから危機管理の対策をしてきました。

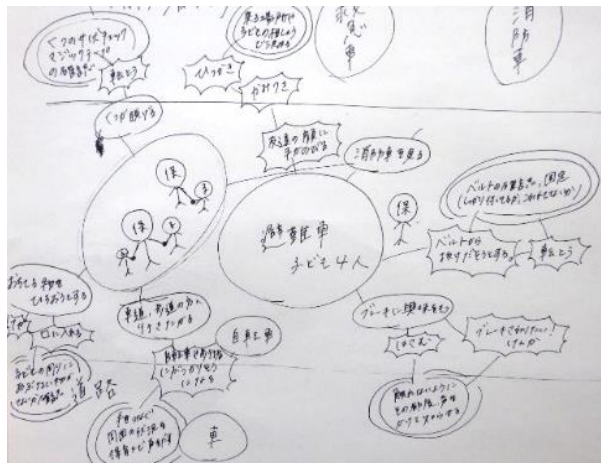
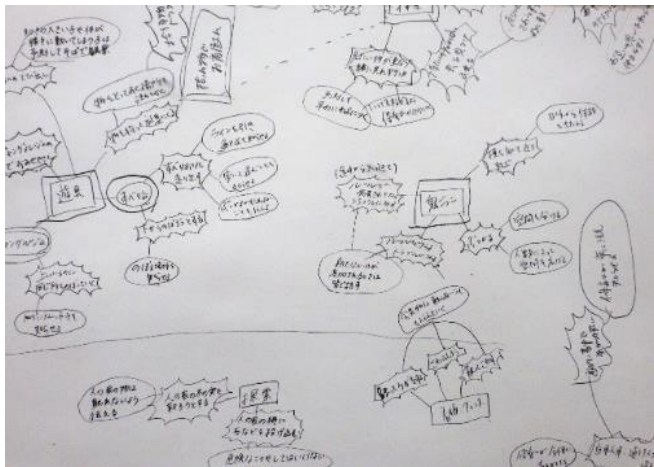
基本的な散歩マニュアルの確認、チェックリストでの振り返りもしてきましたが、それでも事故が起こればということから、相生保育園ではウェブ図を用いた園内研修を行いました。この研修により、危険予測を可視化することで、職員間で危険の再確認と共有ができました。また、園庭と散歩先において各クラスで今の子どもたちの姿から(遊びから)考えられる危険とは、そしてリスクを回避する方法も考えました。

相生保育園では、事故を防ぐために、保育士同士が連携し互いを補い合いながら保育をしています。「チーズの穴の理論」にあるように、複数の安全対策をとっていても1つの対策には必ず穴があり、その穴が一直線に重なった時にリスクが通り抜け、事故が発生します。リスクを回避するためにも、保育士一人一人の危機管理能力を上げる、共通認識のもと保育にあたり事故を未然に防ぐことをねらいました。

研修では保育士の気づきに重きを置き、それらを声を出して確認することの大切さと必要性を学びました。園内研修で見いだされたものを保育の中で生かしていきたいと思います。

園外活動の意義とリスクとの両方を理解し、安全は守りながらも子どもにとってより良い保育を行っていきよう日々考えていきたいと思っています。

(ウェブ図の一例)



## 赤塚新町保育園の取り組み

赤塚新町保育園では受講した2名の保育士の研修報告をきっかけに「主体性を育む保育」について改めて見つめ直ししていくことにしました。まず乳幼児打ち合わせの中で話し合いを重ね、各クラスの保育の中で子ども目線から子どもを主体とした環境、保育士の関わり、保育の進め方などの振り返りを行いました。

### 【乳児クラス】



#### “トンネル、磁石遊び”

0歳児クラスでは、ハイハイやつかまり立ちが盛んになり、子どもたちの行動範囲が広がる中で、つまんだりひっぱったりの指先を使うことや探索活動が盛んになってきました。そんな子どもたちの様子を受けて、保育室のあちこちに段ボールの手作りトンネルを置いたり、貼ったり剥がしたりが楽しめるぺったんコーナーを作りました。子どもたちが自分で遊びを見つけ、満足いくまで楽しんでいきます。

### 【幼児クラス】



#### “とといてカード”

せっかく作ったのに片づけなければならぬのは、遊びの連続性に欠けるのでは、と幼児クラスの担任が考えました。「この作品は完成していない。」「この作品でまた遊びたい。」という気持ちを大切に、子どものマークをカードにし作品を残すことで、遊びを保障し続けられます。

#### “帰りの会 子ども達が決める活動”

今までは週末になると、来週の予定について保育士から伝えていましたが、5歳児クラスでは「1枠30分」を空けて、子ども同士どんな遊びをしたいかを話し合う「子どもが決める活動」を行っています。自分の意見を伝え合い、時には揉める姿もありますが「来週もあるから、今週は譲る。」「この遊びもやってみたら楽しかった。」という事も聞かれます。自分たちで話し合っ て決めた遊びは、かけがえのない思い出ですね。

### 【職員】

この研修報告をきっかけに、「保育士が考える主体的な保育とは？」と職員一人ひとりが振り返りました。日々の保育の中で「子どもたち自身が選べる、考えようとする機会を減らしていないだろうか」「子どもたちの“やりたい”“やってみたい”の気持ちを大切にすることが主体性への第一歩につながっていくことを再確認することができました。そして子どもたちの“やりたい”をどう保育に活かしていくかも保育士の腕の見せ所！子どもの声を受け、担任間・職員間でアイデアを出し合いながら楽しい活動へとつなげていきます。又、保育士の声かけや関わり方によって、子どもたちが“やってみたい”という気持ちに変化していくということにも気づきがあったようで、保育士間で互いに気づいたことや感じたことなどを伝えあうクラスも見られてきました。

この研修を通し園全体で“主体性を育む保育”の大切さを共有するととても良い機会となりました。職員だけでなく保護者にも保育園で子どもがいきいきと遊ぶ姿を伝え、子育ての楽しさを共有しながら明日の保育につなげられるよう実践していきたいと思っております。

## 研修受講職員の感想

### 「みんな知らない！読み聞かせの本当の効果・効能を知るだけで上手になるコツ」

講師：(社)JAPAN絵本読み聞かせ協会 代表 景山 聖子講師

- ・ これまで数知れないほどの読み聞かせを保育の中で行ってきました。研修や研究会での学びを活かしつつ自分が大切にしてきたこと、経験の中で試行錯誤し、工夫しながらやってきたことが、今回の学びを通して整理でき、自信になったところもありました。大人の読み聞かせを通して相手の人柄をくみ取り言葉で表現したり、自分の評価をいただくことで新たな魅力や才能の発見ができ、大変興味深かったです。それらを活かし、今後も子どもたちにたくさんの絵本の世界を味わわせてあげたいと思いました。絵本が子どもの心の奥底に届くので子どもの行動も変わる「100回叱るより一冊の絵本」この言葉が心に沁みました。絵本探しのポイントの一つになります。
- ・ 絵本の読み聞かせについて、これほど深く細かく考えたことはなかったです。自分の中で絵本を読む際に気を付けていたポイントがありましたが、目からうろこのような話が沢山あり、本当に即実践で役立てられる内容の物が多かったです。また、更に子ども達に絵本を沢山読んでみたくなりました。
- ・ 学んだ内容を職員向け、保護者向けにまとめたので、読み聞かせの効果効能を伝えていきたいです。「100回叱るより1冊の絵本」の話は子育て支援につながる話でした。講師の方が薦めてくれた、「やだ！」という絵本の読み聞かせを試し始めました。忙しい保護者の方に絵本の良さを分かってもらえるように、園での読み聞かせ時の子どもの様子や姿、反応を伝えていこうと思います。

### 「主体性を育む保育」

お茶の水大学アカデミック・プロダクション寄附講座 教授 宮里 暁美

- ・ 子どもの主体性を育む保育として3園の事例を聞き、“主体性を育む保育”の捉え方や取り入れ方の多様性を改めて感じました。その上でグループワークや宮里先生のお話を聞き、主体性を育む保育は0歳～年長児全ての年代の日常生活の中にも、遊びや活動の中にも保育園で生活するあらゆる場面で取り入れることができるのだと実感しました。今回の研修の中で『子どもは“今”を生きている』というお話があり、その場その年の子どもの姿、クラスの様子を捉え保育に取り入れていくということを今まで以上に意識していきたいです。そこには大人のエッセンスも加え、一緒に楽しんでいきたいです。子どもにとって“安心の基地”“安心の避難所”という存在を目指し、安心感の輪の中で子ども自身が様々な挑戦ができるように保育を進めていきます。
- ・ 講義の中であった「年齢が低ければ低いほど、子どもの行動の意味を考える」ことについて、考えていきたいです。同じような行動が見られても一人ひとり意味が違っていたり、行動だけでなく伝え方も変わってくると考えるため、丁寧に観察し考えていきながら関わっていきたいと思っています。
- ・ 乳児の事例や写真、エピソードから0歳児もみんな意思を持った存在で子どものすることには意味があるという話を聞き、子どもの声なき声に目を向け、何をしようとしているのか感じ取り応答的に関わっていきたいと思いました。子どもの声を聴き思いに尊重した関わりは、子どもの権利を大切にされた保育につながると感じました。